

●しながわCSR企業連絡会とは・・・

品川区に事業所を有する企業や団体等の社会貢献活動が円滑に行なわれるように、各種調整や情報交換を行うことを目的とし平成19年に発足しました。

事務局を品川区社会福祉協議会に置いています。

●第31回しながわCSR企業連絡会

令和5年8月21日に、オンラインで開催しました。概要をご案内します。



1 講演

「災害時・災害に備えた平時のNPOと企業の連携」

認定NPO法人 ピースウィンズ・ジャパン 国内事業部次長 橋本 笙子氏

★：認定NPO法人ピースウィンズジャパンについて

1996年に日本で誕生し、必要な支援を必要の人という理念のもとに、世界37の国と地域で活動。紛争地や大規模災害の被災地など困難な現場に駆けつけ、支援。多くの社会問題に取り組む団体。今回の連絡会では、気象・地震・噴火に起因する自然災害を中心に話をする。

★：1980年～10年ごとの年平均最大震度1以上の地震回数、降水量と土砂災害

・地震回数

1980年代から現在までで地震の回数を比較すると、地震の回数も増え、震度5以上の大きな地震も増えている。今後、30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は東京で47%となっている。火災・大雨で被災、交通事故で負傷する確率よりも地震で被災する確率の方が高い。日本の面積は地球規模でみるととても小さいが、地球の地殻エネルギーの10%が集まっている。そのため、いつ何が起きるか分からない。

品川区では都心南部直下地震が起きると震度6強、多摩直下地震が起きると6弱で予想されている。震度6強以上は時間の経過とともに大きな問題が出てくると言われており、建物・人的被害が多く出ることが予想される。この予想を大きくするのも小さくするのも自分自身の備え・想定が大切。

・降水量と土砂災害

年平均降水量が日本は世界の約2倍。土砂崩れは年間で5,000件発生しており、そのうち5分の1の約1,000件が被害があり、土砂災害が起こっている。

1時間あたりに降る雨の量も増えており、50～80mmの非常に激しい雨、80mm以上の強烈な雨の回数も年々増えている。今後も温暖化の影響で非常に激しい雨が増えていく。

日本の下水道は1時間当たり、50mmを想定して作られている。当時は50mmで大丈夫と言われていたが、現在は50mm以上の雨が降ることも多いため、マンホールから水が溢れることがある。

東京は水害被害額の約90%がマンホールから水が溢れる等の内水氾濫であると言われている。自分の住む地域がどのような地形なのか、ハザードマップで事前に確認することも必要。

★：首都直下地震等の大災害に備えて

災害時は行政、団体、自衛隊など、どれだけ協力し合えるかが大事。1つとして同じ災害はない。いつどれくらいの変異気象が起こるかは想定外であるが、災害が起きたらどうなるかは想定内。1人1人が様々な想定をしていくことが大切。

また、首都直下地震等に備えて、東京都では様々なステークホルダーが集まり、検討をしている。（東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議）

災害は昼おこるのか、夜おこるのかによっても違うが、東日本大震災の際は、東京は被災地ではなかったが、混乱していた。被災地となった時、社員、家族は守れるか？まずは社員・家族の安否確認をしてから行動する。

（社員の防災教育、BCPの作成等）

★：東日本大震災時の企業との連携

東日本大震災時、スターターキットを企業とNPO団体が連携し、配布。企業には物だけではなく、人・お金等たくさんのご協力をいただいた。支援物資の輸送の問題もあったが、震災で営業がストップしている引越し業者に、支援物資を運んでもらった。その他、避難所等に移動販売車として来てもらい、大変助かった。

企業からの支援で残念だったこともあった。不要なものではなく、本当に必要なものと考えて送って欲しい。支援活動を行うには、企業と同じく、人・金・物が必要。また、それらを調整する力が大変重要である。NPOのメリットとして現場（被災者）に近いという点があり、被災者に直接話を聞き、実際に何が必要なのかを把握するよう努めている。何が必要なのか分からなければ自分たち（NPO）を利用して、情報を取りに来て欲しい。場合によっては、こちらが購入することもある。被災当初は企業のできる範囲で無償提供してもらうが、ある程度の時間が経過したら、企業と商取引通して、復旧・復興に向けて関わっていく。商取引の際、企業として取引先の財務状況等を見て、話をすすめていくが、立ち上げたばかりの団体もあれば、歴史が長くても、過去数年間の収入と直近1年間の収入が同じという団体もあり、判断ができないこともある。だからこそ、平時から団体と連携することが大切。

★：ピースウィンズジャパンの取組

企業と団体が連携をしていくには、まずは、NPO団体等は自分たちの活動を知ってもらう必要がある。

本日はピースウィンズジャパンの2つの取組を紹介。

・空飛ぶ捜索医療団

西日本豪雨以降に立ち上げたプロジェクト。看護師、ドクター、企業等様々な職種に登録してもらい、大規模災害の被災地にいち早く駆けつけ、救助・救命活動を行う。現在400名が登録。防ぎ得た災害死への挑戦として、1人でも多くの命を救うためフィールドホスピタルの運営・訓練をしている。NPO、DMAT、企業等と連携し、24時間訓練を行った。首都圏災害の場合、外からの支援が難しいため、ヘリポート付の災害医療支援船も保有。災害医療支援船も毎月訓練している。

災害が起きた時に協力し合える団体を探しても、すぐに判断することは難しい。何が出来るのかを平時から考え、災害時に備えることが必要。

・ピースウィンズジャパンが平時にできること

地域の防災力を高めるため講演・研修・ワークショップを行っている。準備等でお金がかかるため、有料の講座となるが、ご希望があればお声かけください。

■質疑応答

【NPO法人教育サポートセンターNIRE】

災害時に社会的に弱い立場の若者や子どもたちが困らないようにするにはどうすればいいか。また、逆に力を発揮する場合もあるかと思う。どのような準備があるか。

→若者、子どもたちが災害時に出来ることについては、平時からやっていることでないと災害時にも出来ない。感染症対策として平時からの手洗い、うがいも大切。また、トイレを含む掃除、片付け、布団を干す、小さい子と遊ぶ、高齢者の介助等子どもでもできる内容はある。支援される側、する側にならないよう平時から取り組んでおくことが重要。

【認定NPO法人 プラチナ美容塾】

東京では内水氾濫が多いという話があった。川の氾濫・危険水域などは区の情報誌等で確認ができるが、内水氾濫はどのように判断するのか。

→品川区の最新版のハザードマップには浸水・内水氾濫の情報も出ている。川がなく、街中に浸水マークがある場合には内水氾濫と言える。しかし、ハザードマップの想定をこえることもあるため、安心せず、最悪を想定しておく。ベランダからの浸水等家の中での内水氾濫もある。平時からベランダや雨どい、排水溝等の掃除・チェックが必要。

2 情報交換、連絡事項

①：情報交換

今年度から新しくCSR企業連絡会に登録いただきました企業様にもご挨拶いただきました。

【住友重機械工業株式会社】

皆様の活動を参考に今後も皆様と一緒に活動ができればと思います。

②：事務局からの連絡事項

・アンケート等について

事前に回答いただいたアンケートは一覧にし、メールで送付しています。各自でご確認ください。

・CSR活動報告

年度ごとにCSR活動の報告をお願いします。社協HPIにCSR活動の情報を掲載。1年分をまとめ4月15日までにメールもしくはFAXにてご提出ください。

今回は、2月もしくは3月に開催予定。コロナの感染状況にもよりますが、可能であれば対面型で開催します。

第31回 しながわCSR企業連絡会 参加企業・団体（順不同） お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました！

【団 体】 NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち、NPO法人教育サポートセンターNIRE、NPO法人ICT救助隊、NPO法人難民を助ける会、NPO法人しながわチャイルドライン、認定NPO法人プラチナ美容塾、一般社団法人モノづくり×プログラミングfor Shinagawa

【企 業】株式会社ケーブルテレビ品川、かんべ土地建物株式会社、三英電業株式会社、東京商工会議所品川支部、東芝エレベータ株式会社東京支社、協栄産業株式会社、合同会社ヤマナカ、住友重機械工業株式会社